

式 辞

今日から弥生三月、季節が変わり温かい日差しと共に春の訪れを一層感じさせる今日の佳き日、来賓並びに保護者を代表して、PTA会長の岩川耕治様のご臨席を賜り、ここに山形県立上山明新館高等学校・令和元年度・第27回卒業証書授与式を挙げて行きますこと、私たち教職員一同大変うれしく思います。

ただいま卒業証書を授与した271名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。皆さんは、高等学校の教育課程を無事終了し、本日、卒業という栄誉を手にすることができました。これは、一人ひとりが、たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であることは言うまでもありません。しかし、これまで皆さんの成長を願い、見守ってこられたお父さん、お母さんをはじめ、ご家族の方々から愛情いっぱい育てられてきたこと。また、学校の先生、友達、部活動の先輩・後輩、地域の方々など、多くの人たちの励ましや支えがあつて、今があることを忘れないでください。卒業を機に、これまで生活を送ってきた家を出て、親元を離れる人もいることでしょう。この人生の中での大きな節目にあたり、皆さんの成長を支えてくださった方々に、是非、卒業証書を手し、自分の言葉で感謝の気持ちを伝えてください。

さて、私は、皆さんと同じ3年前の春に本校に着任し、夢と希望に満ち溢れて門を潜った皆さんに入学を許可しました。中学生のあどけなさを残した初々しい姿が今でも思い出されます。今日こうして立派に成長した皆さんを前にしてとても胸が熱くなります。

この学び舎で過ごした掛け替えのない3年間の年月は皆さんにとってどのような時間だったのでしょうか。上山明新館高等学校での生活は、たくさんのことに彩られ、成り立っていました。毎日、一つひとつ積み上げた授業、その中で得ることができた、多くの気づきと学び、学年を超えて仲間とともに励んだ部活動、クラスメイトと心をつなげて取り組んだ体育祭や麗明祭などの学校行事、たくさんの温かい心に出会えたボランティア活動や地域貢献活動など。そして、それら活動の成果として、県・東北・全国の各種大会や発表会・コンクールなど、晴れの舞台での活躍もありました。時には、とまどいや悩み、重い足取りで教室に向かった時もあったことと思います。立ち止まってしまった

時やもう進めないのでは、と思った時もあったかもしれません。辿った道のりも、かかった時間も異なり、決してひとくくりにはできない、それぞれの高校生活がありました。それでも、大変なことがあるからこそ、楽しいことや嬉しいことがある。楽しいことがあるからこそ、大変なことや辛いことも頑張れる。というように、歩みは様々ですが、そこにはたくさんのものが、ぎっしり詰まっていて、その結果として、今日の卒業があるのです。誇らしく自信を持って巣立ってほしいと思います。

ここで、新たなステージに旅立つ皆さんに餞の言葉として大切にしてほしい「三つの心」について話をしたいと思います。

まず一つ目は、生涯を通して学び続ける心・向学心を持ってほしいということです。皆さんが生きていくこれからの社会は、少子高齢化、グローバル化など様々な課題が挙げられ、また、人工知能AIが、あらゆる分野で存在感を増し、今後の職業さえ予測しがたくしています。さらには今年の冬が極端な暖冬だったように、地球温暖化による環境問題や地震・台風などの自然災害、そして、今まさしく発生しているような新たな感染症なども心配されます。このような変化の激しい先行き不透明な社会に対応し適応するためには、新しい知識が必要となり、その都度、自分自身をアップデート、更新していかなければなりません。そのアップデートが学びであります。また、学ぶことは過程であり、終わりはありません。意欲をもって学ぶ心を持てば、胸踊るような新たな発見の喜びや進歩の実感にも出会えることでしょう。ぜひ、皆さんには、社会の流れを感じながらも、学びの心・向学心を生涯にわたって持ち続けてほしいと思います。

二つ目は、目に見えない心の大切さを忘れないでほしいということです。世の中に存在しているものは、目に見えるものだけではありません。夢や希望、愛情や友情、思いやり、そして人と人の信頼関係など。また、人権を尊重する心、あらゆる生命（いのち）を大切にする気持ち、ルールを守り不正を許さない規範意識、平和を希求する心、自分自身を大事にする自尊感情など、枚挙に暇がありません。このような目に見えない精神的な心の存在は、私たちが生きていく上で、必要不可欠で、大切にしなければならないことです。そして、それらは、社会生活を送る中で自らが育てていかななくてはならないものなのです。

自由度が高く、自己責任が重要視され、多様な価値観が共生する社会で生きていく皆さんに、目に見えない心の大切さをしっかり育てて欲しいと思います。

三つ目は、挑戦する心・チャレンジ精神を持ち続けて欲しいということです。進学するにせよ、就職するにせよ、人生の岐路には挑戦がつきものです。これまでも、たくさんの挑戦をしてきた、という人もいることでしょう。しかし、本当の意味での挑戦が始まるのは、保護者の庇護から離れ、人生を自分の力で切り開くこれからのことです。当然、不安や不確実性がつきもので、失敗や挫折も経験することでしょう。時には困難な壁や大きな試練にも遭遇します。それでも、あきらめず、試行錯誤を繰り返すプロセスの中で、新たな可能性をつくり、自分自身を成長させることができるのです。これからの人生を一層充実させるために、挑戦する心を持ち続けて欲しいと思います

さて、この学び舎での三年間の時が満ちて、いよいよ心を通わせた友人や先生との別れの時がやってきました。皆さんのこれからの進む道は、一人ひとり異なります。ただ、共通することは、この上山明新館高等学校で学び、高校生活を送ったということです。それを互いに誇りに思い、新たなステージにおいても、皆さんを力強く支えてくれた、校訓「日々新たに、又、日に新たなれ」に思いを馳せ、逞しく生きていくことを心から期待いたします。

結びに、今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。この卒業と重なり、皆さんにとって生涯記憶の残る年になることでしょう。平成の時代に生まれ育ち、これから令和の時代に生き抜く卒業生の皆さんが、元気に、さわやかな笑顔で、はつらつと活躍され、「幸多からん」ことを願い、式辞といたします。

令和二年 三月 一日

山形県立上山明新館高等学校長 阿 部 孝